

今月の畜産物市況

牛枝肉・豚枝肉・鶏卵・食鶏

牛枝肉

堅調横ばいか!!

三月の相場は、月央から急騰し、いわば高原相場ともいえる高値が続いている。入荷は依然として少なく業者の手持も少なく、冷蔵庫も30%位の入りで荷さばきは非常に良好である。

今後の見通しについて市場筋では、入荷頭数のいかんにもよるが、これだけの高値が出たのだから入荷増が考えられ、もし入荷が増えれば相場は修正されて下げもあろうが、全体的に肉牛の絶対数は少なく、素牛の価格上昇から、実勢は堅調横ばいといっている。ただこれ以上相場の上げはまず考えられないとしている。

豚枝肉

保ち合い

3月相場は、ジリ安傾向で月末には300円を割る相場となった。一応300円は底値とみられ相場が300円近くになると活発な商状となる。豚価は入荷頭数により左右されるので800頭台の入荷は下げ、600頭台では保ちあい、それ以下になれば高値をつけるのが現状の動きである。

今後の見通しについて市場筋では、ぼちぼち加工の買いもあるので、余り大きな下げはなく保ち合いを続けるものとみられる。

鶏卵

弱気

3月相場は、やや安定した動きで推移した。これは入荷が安定していたのと大口需要が加工用として手当買いを開始し、需給のバランスがとれたものとみられる。4月相場は昨年月始め一級品中値180円から始まり月央には160円台に下り、月末には151円の安値に落ちこんでいる。

今年も、昨年同様の動きになるのではないかとみられるが、昨年ほどの産卵増は、ないとみられるので、下げても160円台は維持するものとみられる。

食鶏

やや強気

昨年、ブロイラーは洪水的入荷により4月下旬下押ししたが、今年の動きは多少異なり全般にじりじり上げ歩調をたどっている。

概況としては入荷がやや少なく堅調に進むのではないかとみられている。産鶏はこのところ卵価が、やや回復したのと、陽気が良くなるにつれて産卵増から出荷が少なく強含みに推移する見通しである。